



ぴょんぴょん



VOL.3

豊岡市教育委員会
幼児育成課
2023年11月16日（木）発行



運動遊びに関する情報を発信しています。

季節の変わり目となり、体調を崩しやすい時期になりました。また、感染症にも対策が必要な季節となり、子どもたちの体調が気になるところですが、先生方におかれましては、これまで同様、お身体にお気を付けください。

今回は、私の経験を基にこの通信を作成させていただきました。ご縁があり、この4月から運動遊び事業に携わらせていただいております。そこで、これまで全く知らなかった遊具の使い方について、ご紹介いたします。

子どもたちの発達段階に合わせた遊具の使い方を取り入れていただくことにより、様々な体の力を身に付け、子どもたちが楽しく遊具に触れる経験をたくさんしてほしいと考えています。

ぜひ、先生方と相談しながら一緒にたっぷり遊具に触れる機会を作ってみてください。④

幼児育成課 仲義 健・山内 夢斗哉・上野 真希

子どもたちの成長に合わせた遊びを考えてみよう

巡回訪問の時に各園の定期的取組を拝見させていただく中で、先生方がいろいろ工夫され、真摯に運動遊びに取り組んでいただいていることに感謝しております。先生方が子どもたちと一緒に楽しく体を動かした遊びをすることで子どもたちも健やかに成長してくれていることと思います。

そこで今回は、子どもたちと遊ぶ時に知っておくと、より保育を考えることにつながるのではないかと、というポイントをご紹介します。

早速ですが…

ここで先生方へクイズです！！

子どもの発達段階を考えた場合、どの遊具から遊ぶ・触れるとよいと思われませんか？



▲高さ1.5mのうんてい

▲高さ0.9mの鉄棒

▲高さ3mの登り棒

正解は… 登り棒 ⇒ うんてい ⇒ 鉄棒 が身体面の発達段階に合わせた順番となります。この順番はあくまでも理屈上であって、その順番を必ず守らなければならない、というわけではありません。それぞれの子どもの興味や関心にあった遊びをたっぷり楽しんで過ごしてください。

なぜ、その順番なのか？それは必要とする力が以下のとおりだからです。

- 登り棒：握力、懸垂力など
- うんてい：握力、懸垂力、振り子感覚など
- 鉄棒：握力、懸垂力、振り子感覚、跳躍力、支持力、逆さ・回転感覚など

つい、高さに目がいきまじやが、必要とする力・感覚を考えてみて、よりシンプルなものから始めるのが、いいのじゃな！

運動遊びの楽しさ

ほかにもこんな乳幼児の発達段階を知っておくと役立ちます！

【0～3歳：脚力発達期】

たくさんハイハイをし、立って、歩いて、走るという力（下肢の力）をしっかりと身に付けたい時期です。

下肢の力が育つと…
バランスよく立つことにつながります。

【3～6歳：胸郭発達期】

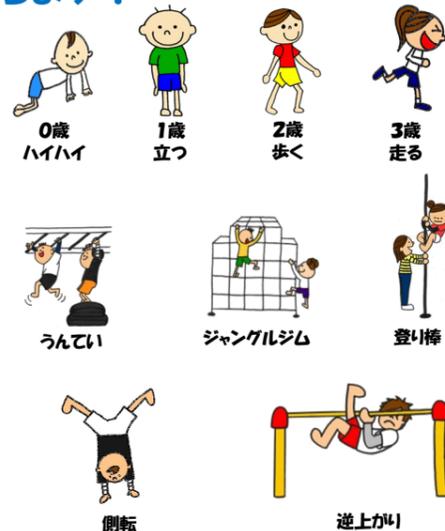
胸をとりまく上半身（へそから上）、おもに上肢の力を発達させたい時期です。

上半身の力が育つと…
背筋が伸びた状態で座ることができます。

【6～10歳：全身的発達期】

それまでに完成された下半身の力と上半身の力を連結させ、全身的な運動に発展させる時期です。

全身の力が育つと…
様々な運動に挑戦することができるようになってきます。



子どもたちの成長を踏まえながら、体を動かした遊びをたくさんすることで先生の話の聞いたり、姿勢良く給食を食べたりすることにつながるのかもしれないね♪

「友達だもん」 ～自分を認めてくれている大人以外の他者～

（文＝仲義）

2年前の、ある園での5歳児運動遊び巡回訪問時のサーキットチャレンジでの出来事です。サーキットでは、好きな場所で遊びます。私は、大縄コーナーを担当していました。すぐ隣にはワニトンネルがありますが、近くで遊んでいたR児が、何やら私に訴えかけてきました。

R児 「A君が順番抜かしたー。」
私 「あ、そうなんだー。」A君にも聞きます。「A君、どうだったの？」
A児 「…。」（なんともしんじなそうな表情。おそらく心の声は『そんなつもりはなかったけど、R君には、そう伝わっちゃったの？』）
R児、A児、私（3人とも） 「……………」
私 「（2人に対して）A君は、順番抜かしたの？」
A児 「…。」首を横に振ります。
私 「そうなんだあ。R君、A君はこんな感じに思ってるみたいだけど、どうかなあ？」
R児 「…。」何となくは分かっているものの、言葉を探している様子。
～3人、しばらく沈黙～
私 （心の声）『さて、どうしたものか…。粘って待ってみたものの、残り時間も少なく、ちょっとこれ以上は…。』
「どうしようかな？ 困っちゃったねえ。仲直りできるかなあ？できないかなあ？」
A児 「…。」
R児 「**友達だもん！**」（私が推察するR児の声）『（僕たち）友達だもんく、仲直りするに決まってるやん！』
この一言で場面の空気は劇的に変わりました。その言葉を聞いたA児は、とても安心したような表情（笑顔）になり、2人は揃って、ワニトンネルを潜っていきました。

お互いの気持ちや言い分は何となく分かってはいるけれど、そのことをまだ上手に話せません。そんなモヤモヤした空気（雰囲気）になったところでの究極の一言でした。この2人が遊ぶ時、おそらくまだもう少し、大なり小なり、いざこざが起きることでしょう。しかし、その度に、きっと2人はそのようなやりとり（経験）を繰り返しながら、人との上手な付き合い方を学んでいくのだと思います。

この場面に分れ、私も遠い昔のことを思い出しました。小学校2年から3年の時のことです。原因は思い出せないので、（きっと些細なことでしょうが、）当時一番仲の良かった友達と、お互いの頬をぶち合うケンカをしました。結局折り合いがつかず、ケンカしたまま、家に帰りました。ですが、仲の良かった友達だけに、家に帰ってからも、気分はとても憂鬱で、次の日、学校に行きたくなくなりました。悶々とした気持ちのまま、何とか頑張って、登校しました。「朝、（彼の）顔を見たらどうしようかな、なんて声をかけよう？ 知らんぷりをしようかな…」など、いろいろ考えていました。

そして、いざ、教室で顔を会わせることに…。自分なりに筋を通そうと腹を括りました。まずは一言謝っておこう。仲義 「昨日はごめんよ…。」すると、その友達がすぐに友達 「俺もごめんよ。」と謝ってくれたのでした。昨夜から、胸の奥にずっとのしかかっていた得体の知れない、とてつもなく重たい何かが一気に吹き飛びました。そして、思いました。「（2人の関係のことで）いろいろ思い、悩んでいたのは、僕だけじゃなかった。相手もきっと同じくらい（僕のことを）思ってくれていたんだ」と。あの時の、言葉では言い表せない、心から嬉しかった気持ちは今でも忘れられません。

子どもにとって、先生が寄り添ってくれる安心感は絶大です。特に幼児期は、ですが、そのクラスや園の中に「友達（＝自分を認めてくれている大人以外の他者）がいる。」という安心感も絶大なはず。園生活では、できればケンカなどをせずに和気あいあいと過ごしてほしいところですが、ケンカをすることは、決して悪いことばかりではありません。いざこざやケンカが起きるということは、「友達」がいるからです。ケンカをしたらその後どうするか。そんな経験を通して、「友達」はいろいろなことを教えてくれます。多くでなくてもいい、一人でもいい。そんな「友達」に出会い、益々、心も体も健やかにたくましく育ってほしい、そう願います。